

メッセージアウトライン 2017年12月3日(日)「ベテルとペヌエルでの体験」

聖書箇所：創世記32：24～32

タイトル：「ベテルとペヌエルでの体験」

テーマ：創世記の重要人物ヤコブは、ベテルで神と出会い、さらにペヌエルでの神との格闘をとおして信仰者として造り変えられていく。神は私たちに会ってくださるだけではなく、私たちを造り変えてくださるお方である。クリスチャンもベテルでの経験、ペヌエルの経験の両方を必要としている。真実に神に向き合おうとする者を神は必ず造り変えてくださることを、ヤコブの生き方をとおして学んでみよう。

1. 文脈の確認

- ①ヤコブという人物
- ②兄エサウとの確執
- ③パダン・アラムへ

2. ヤコブのベテル体験

- ①一人、旅立つヤコブ
- ②一夜を明かした場所で
 - *ヤコブの見た夢
 - *神からの語りかけ(神の約束)
- ③ヤコブにとってベテルの体験は何だったか
- ④ヤコブのベテル体験は、クリスチャンにとってはどんな体験だろうか
 - *天使がはしごを上り下りしている——→
 - *地上のすべての民族はヤコブと彼の子孫によって祝福される——→
 - *ヤコブと共にある神、見捨てない神——→

3. ラバンのもとでのヤコブの体験

- ①ラケルとの出会い
- ②レアとの結婚
- ③パダン・アラムで生まれた11人の息子たち
- ④ラバンに忠実に仕えたが、何度も騙されたヤコブ
- ⑤カナンの地を目指して、ラバンのもとから逃亡

4. 兄エサウに出会うのを恐れるヤコブ

- ①解決できていないエサウとの関係
- ②兄をなだめるための様々な計画

③ぬぐいきれない不安

5. ヤコブのペヌエル体験

①神の使いとの格闘、戦い抜くヤコブ

②ヤコブからイスラエルへ

③もものつがいはずれたヤコブ——兄への恐れが取り去られた

④ヤコブにとってペヌエルの体験はなんだったのか

⑤ヤコブのペヌエル体験は、クリスチャンにとってはどんな体験だろうか

*Footprints（あしあと）という詩に見るベテルからペヌエルへの意味

Footprints（あしあと） by マーガレット・F・パワーズ

ある夜、わたしは夢を見た。

わたしは、主とともに、なぎさを歩いていた。

暗い夜空に、これまでのわたしの人生が映し出された。

どの光景にも、砂の上にふたりのあしあとが残されていた。

ひとつはわたしのあしあと、もう一つは主のあしあとであった。

これまでの人生の最後の光景が映し出されたとき、

わたしは、砂の上のあしあとに目を留めた。

そこには一つのあしあとしかなかった。

わたしの人生のいちばんつらく悲しい時だった。

このことがいつもわたしの心を乱していたので、

わたしはその悩みについて主にお尋ねした。

「主よ。わたしがあなたに従うと決心したとき、

あなたは、すべての道において、わたしとともに歩み、

わたしと語り合ってくださいと約束されました。

それなのに、わたしの人生のいちばんつらい時、

ひとりのあしあとしかなかったのです。

いちばんあなたを必要としたときに、

あなたが、なぜ、わたしを捨てられたのか、

わたしにはわかりません。」

主は、ささやかれた。

「わたしの大切な子よ。

わたしは、あなたを愛している。あなたを決して捨てたりはしない。

ましてや、苦しみや試みの時に。

あしあとがひとつだったとき、わたしはあなたを背負って歩いていた。」

6. 結論

- ① 私たちにも必要なベテル体験とペヌエル体験
- ② ヤコブが神を求める真実な姿勢に学ぼう
- ③ 2つの体験を経てもなお失敗する私たちに注がれる神の愛と、私たちの帰るべき場所